

# BEN STYLE

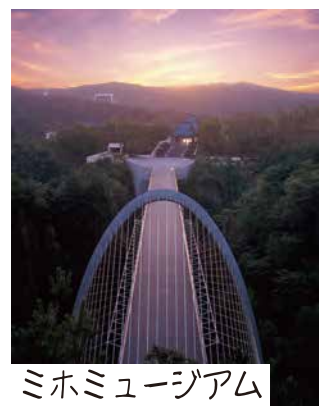
第245号  
 BenHouse  
 (記事はあくまでも個人の私感でございますので悪しからず。)  
[www.benhouse.co.jp](http://www.benhouse.co.jp)

**風が吹くまま気の向くまま  
 行った事ないとおおさえ旅**

社長 尾上大輔

とりあえずホテルがとれました。  
 あんまり行った事がない町に宿まりたい&前日でも予約がとれるホテル&1万円以下こんな条件で、和歌山県、徳島県、広島県と探す。今回はややきびしい。滋賀県の日野町『ええやん』今日は眠たいので明日……。なんて言ったら先を越されてしまった。しようがないので近くの甲西駅のホテル8400円で妥協する。翌日朝8時30分出発。あいかわらず名神は少分込み、高槻ー大津120分、これは無理と下道に降りる。しかししも大渋滞、ここらで行先を信楽方面へと決定、宇治を抜けて信楽へと向う。楽しみは通った事のない道を通るのも一つ。途中宇治田原の魚よしさんで昼ごはん。名前は魚よしだがメニューに魚はほとんどなし。しかし星4は結構おいしかったです。続いて307号線

を進めば、ポンポコためきがぎよっさんあります。つまり信楽到着です。信楽にはミホミュージアムってのがある。ここは車でしか行けないので、今回おさえておこう。以前からバス旅行の広告で見ていた。こんな山中にだれがこんな美術館建てたのが不思議やったんやけど、『こんなん建てる人は近江八幡の和菓子屋たねやさんとぐらいやな』と勝手に思っていた。さくらの時期が最高とな。しだれ桜が満開である様を想像しつつ、駐車場から遊歩道を歩いて行く。遊歩道からトンネルと橋を経て美術館へと至る構想は、中国の古典、陶淵明の『桃花源記』に描かれた桃源郷がモチーフになっていきます。それは、一人の漁師が芳香漂う桃花林に導かれるように彷徨い込んだ洞窟の



ミホミュージアム

向こうに、理想の楽園が広がっていたという物語です。トンネルを抜けるとミホミュージアムの建物が見えてきた。なんか見たことのない雰囲気やん。中国系アメリカ人M・ペイが監修、ルーブル美術館のガラスのピラミッド(これもM・ペイ)の様な建物が谷の向こうに見えてきました。これだけでも感動だが、橋を渡って桃源郷の中を美術館へと進む。今回の企画展は『黄金の物語』です。今、金の相場がバカ上りなので時世に合った企画だなあって俗っぽいかもしれません。世界中より歴史や装飾品が集められて、また金の採取方法や歴史等も展示されています。国立博物館よりよっぽど素晴らしい(民間の知恵)です。6月9日(日)まで開催しているのですがこの期間はお値打ちですね。さすがたねやさんと思いきや、実はちよつと違って、小山美秀子(こやまみほこ)さん(神慈秀明会)が1997年に創設されました。



有名なトンネル

美術館のビデオコーナーには建設当時のビデオも流れていて、創設のいきさつを知りたい方は是非ご覧下さい。北館の企画展の他に、南館の常設展も世界各地から歴史美術が集められていて、お値打ちです。ぜひ皆様も一度お訪ね下さいね。さて、ミホミュージアムも堪能して、車で甲西ホテルへ、夜ご飯は近江牛の牛筋煮込みと日本酒を楽しんだ。翌朝は東濃へ、『岐阜のマチュピチュ』とよばれる天空の茶畑を訪ねる。ここは山の上空の茶畑で尾根の展望台からのぞく。茶畑は少してマチュピチュに似てるかなあ。次は西国33番の谷汲山華嚴寺で満願御朱印をもらい、樽見鉄道終点のたるみへ、淡墨桜(また蕾)をみて、多治見市のホテルへ到着。ここは6200円と安い、但し暖房が故障とか。翌日は明治村へ、ここも30年前からうわさに聞いていたのでおさえておかないな。さつきからおさえるの言葉が再々登場するが、これは『人生で



岐阜のマチュピチュ

一回は行つとかないあかん』の意味がある。開門の30分前についた、朝から行列です。何と鬼滅の刃のイベント日でした。そこから中に炭次郎やねず子、義勇さんがいる。コスプレが似合う町明治村なんです。なんで明治村ができたのかのいきさつについて、明治村は谷口吉郎（博物館明治村初代館長）と土川元夫（名古屋鉄道会長）が、戦後の急速な経済成長の蔭で失われつつある明治時代の建築物のうち、歴史上にも文化芸術上にも価値があるものを末永く保ちたいとの意見で一致し、そのための財団設立を構想したのが『明治村』の発端である。1965年より60年もの歴史を刻んでいます。大ちゃんがかっこへ来たかった一番の理由は、旧帝国ホテルの建物が見たかったからです。一番に帝国ホテルに入館する、入ったらまずはピデオを見てくださいね。アメ



旧帝国ホテル

リカ人設計士ライトによる建設のようが上映されています。知洋を取り入れた素晴らしい建物です。またガイドさんについて回っても、いろいろ教えてもらえます。2階ではコーヒーとケーキをいただきます。そのあとは守治山田郵便局や呉服座、三重県庁、大井精肉店が見どころかなです。1日では回り切れないと聞いていたが、大ちゃんほとんど回った、しかし1万8千歩は翌日に効いていました、無理したらあかんよ。今回はいっぱいおさえたなあ。めでたしめでたしデス。



明治の建物群

### かがわマラソン参加記

営業 栃木陽紀

先日、大学時代の友人とともに、香川県高松市で開催されたフルマラソンに参加しました。前日から現地入りし、街の



雰囲気や食事も楽しみながら過ごすことができました。3月14日の昼前に高松へ到着し、まず訪れたのは有名店の『手打ち十段うどんバカー一代』です。名物の釜バターと卵がよく絡み、シンプルながらも印象に残る味でした。以前から気になっていたお店でしたが、これまでは行列を見て諦めていたため、今回ようやく訪れることができました。当日も30分ほど並びましたが、それだけの価値を感じられる一杯でした。その後は高松駅周辺を散策し、立ち飲みスタンドにも立ち寄りながらゆったりとした時間を過ごしました。夜は香川名物の骨付鳥をいただきました、カフェやバーにも足を運び、旅先ならではの雰囲気を楽しみました。翌3月



15日はマラソン当日。第1回大会ということもあり、約1万人が参加する大規模なイベントとなりました。天候にも恵まれ前半は順調なペースで走ることができ、ハーフ地点までは良い流れでした。しかしその後は脚が攣り始め、思うようにペースを維持できず失速。日頃の走り込みの重要性を改めて実感しました。それでも無事に完走することができ、大きな達成感を得ることができました。また、給水・給食所ではうどんや地元のお菓子が提供されていたことが印象的でした。次に参加する機会があれば、もう少ししっかり準備を整え、最後まで気持ちよく走りきれるようリベンジしたいと思います。思い出に残る充実した二日間となりました。

